

## 平成19年度 事業報告

### 平成19年度 体育研究所所員名簿

所 長 西條修光 体育学部教授 (体育学科/  
体育研究所)  
成田國英 体育学部教授 (教養教職  
科/教職教育 I 研究室)  
専任所員 伊藤雅充 体育学部助教 (武道学科/  
体育研究所)  
兼任所員 具志堅幸司 体育学部教授 (体育学  
科/運動方法〔体操競技〕  
研究室)  
船渡和男 体育学部教授 (体育学科/  
トレーニングセンター)  
荻 浩三 体育学部准教授 (体育学  
科/体育史研究室)  
鈴川一宏 体育学部准教授 (健康学  
科/衛生学・公衆衛生学研  
究室)  
西山哲成 体育学部准教授 (体育学  
科/身体動作学研究室)  
三宅良輔 体育学部助教 (体育学部/  
運動方法〔体操〕研究室)  
中里浩一 体育学部准教授 (健康学  
科/運動生理学研究室)  
津山 薫 体育学部助教 (健康学科/  
発育発達研究室)  
野村一路 体育学部准教授 (社会体育  
学科/レクリエーション学  
研究室)  
宮川八岐 体育学部教授 (体育学部/  
教職教育 I 研究室)  
石上秀昭 体育学部助教 (体育学部/  
社会科学研究室)  
青柳 徹 短期大学部准教授 (短大体  
育科/Ⅲ体育科専門3研  
究室)  
久保 健 短期大学部教授 (短大体育  
科/教養等Ⅱ教職研究室)

時本久美子 短期大学部教授 (短大幼  
児教育保育科/Ⅳ幼児体育  
研究室)

依田充代 短期大学部准教授 (短大体育  
科/Ⅲ体育科専門1研究室)

綿貫慶徳 体育学部助教 (任期制) (武  
道学科/大学院スポーツ文  
化・社会科学系)

所 員 岩原文彦 体育学部助教 (任期制) (体  
育学科/体育研究所)

青山健太 助手

事務職員 伊藤美貴子 臨時職員

### 体育研究所運営委員会

委 員 長 西條修光 (～H19/8/31)

上野純子 (H19/9/1～)

委 員 (～H19/8/31) 大坪敏郎, 清田 寛,  
監物永三, 西山哲也, 林 忠男, 山本  
洋祐, 宮川幸悦

(H19/9/1～) 成田國英, 西山哲成, 山  
本洋祐, 小泉紀雄, 大坪敏郎, 林 忠  
男, 宮川幸悦

### 体育研究所雑誌編集委員会

委 員 長 西條修光/成田國英

委 員 伊藤雅充, 岩原文彦, 青山健太

## 事業報告

### 〈会 議〉

・4月13日(金) 第1回体育研究所専任所員会  
議

今年度の事業案, 研究方針, 予算について

・5月9日(水) 第1回体育研究所運営委員会  
議

今年度の事業案, 研究テーマ, 予算, 18年度決  
算報告について

- ・5月9日(水) 第1回体育研究所兼任所員会議  
委員会での承認事項の報告, プロジェクト研究  
遂行についての諸注意について
- ・9月26日(水) 第2回体育研究所専任所員  
会議  
所長交代による引継ぎ, 事業報告, 予算, セミ  
ナー開催について
- ・10月3日(水) 第3回体育研究所専任所員  
会議  
セミナー開催, 体育研究所雑誌について
- ・10月10日(水) 第4回体育研究所専任所員  
会議  
セミナー開催について

#### 〈セミナー〉

- ・5月16日(水) 「子どもの体力・運動能力を考  
える～プロジェクト研究中間報告～」
- \* 「運動誘発性サイトカインが培養気道平滑筋細  
胞に与える影響」  
中里浩一先生 (運動生理学研究室准教授)
- \* 「幼児の運動能力と環境要因」  
西山哲成先生 (身体動作学研究室准教授)

\* 「子どものからだと動きの『育ちそびれ』を克服  
する『からだの学習』プログラムの開発に向け  
て」

久保 健先生 (短期大学部教養等Ⅱ教職  
研究室教授)

#### 〈ニュースレター〉 Vol. 3

No. 1: 「中国における選手育成システム」

2007年4月5日発行

No. 2: 「鉄棒がなくなる」

2007年4月27日発行

No. 3: 「オーストラリア便り～他を認めてる？」

2007年5月16日発行

No. 4: 「中国におけるジュニア選手タレント発掘  
事業」

2007年6月11日発行

No. 5: 「クラブワールドカップ～審判員のトレ  
ニングに潜入～」

2007年12月19日発行

No. 6: 「知ってるようで意外と知らない? オリ  
ンピックの豆知識」

2008年1月23日発行

### 「日本体育大学体育研究所雑誌第32巻」の正誤表

過日、配布いたしました「日本体育大学体育研究所雑誌第32巻」に誤りがありました。お詫びして訂正させて戴きます。

#### 【訂正箇所】

頁	正	誤
49頁 兼任所員	西山 哲成 体育学部助教授 (体育学科/身体動作学研究室)	西山 哲成 体育学部助教授 (体育学科/運動処方研究室)
50頁 事業報告	11月16日(木)第3回体育研究所運営委員会会議 任期制助教の新採用について	11月16日(木)第3回体育研究所運営委員会会議 任期制助教の震災用について
50頁 セミナー	野井 真吾 講師 (埼玉大学教育学部助教授)	野伊 真吾 講師 (埼玉大学教育学部助教授)

# 日体大体育研究所 ニューズレター

Vol.3 No.1      2007.4.5 発行

## トピックス

### 「中国における選手の育成システム」

①中国は改革開放政策を導入して以来、経済を始めとする様々な分野において改革が試みられ、選手の育成・強化も国家支援を受けながら、民間化が推進されてきました。学校スポーツ、大学スポーツ、プロスポーツは益々盛んとなり、2008年の北京オリンピックを契機として、中国スポーツ界の大きな変化が予想されます。

#### 1 競技スポーツの特徴

②競技スポーツの最大の特徴は、スポーツを国家政策の重要課題の一つとして位置付けていることです。選手育成・強化費は国家予算として計上され、中央政府と地方政府から配分されており、その額は日本よりも多く、表のように巨額なものです。

③優秀な成績を収めた者には奨励金や、優先的に海外の試合に参加させるなどの手厚い待遇がなされ、優れた指導者とトップレベルの選手は国家公務員として取り扱われ、安定した生活が保障されています。そして、2004年の体育行政機関に属する専任コーチと専業選手はそれぞれ25415人と21897人でした。

#### 国家スポーツ補助金の金額

	中央政府	地方政府
1996年	約20.51億円	約390.51億円
1997年	約28.07億円	約475.51億円
1998年	約27.7億円	約446.15億円
1999年	約32.43億円	約468.97億円
2000年	約37.94億円	約502.05億円
2001年	約39.48億円	約621.02億円
2002年	約64.87億円	約662.18億円
2003年	約67.43億円	約681.41億円

「中国財政統計年鑑2005」より引用

#### 2 選手の育成システムの現状

④現在の選手の育成・強化は、裏面の図のように体育行政機関、教育行政機関およびプロチームの管理下で行われ、とくに体育行政機関が最も重要な役割を担っています。ここでは選手を育成・強化するため、すべての省級地域（日本の都道府県に相当）で、多数のジュニア選手を育成する体育学校、体育運動学校とトップレベルの選手を強化する専業運動隊を設置しています。

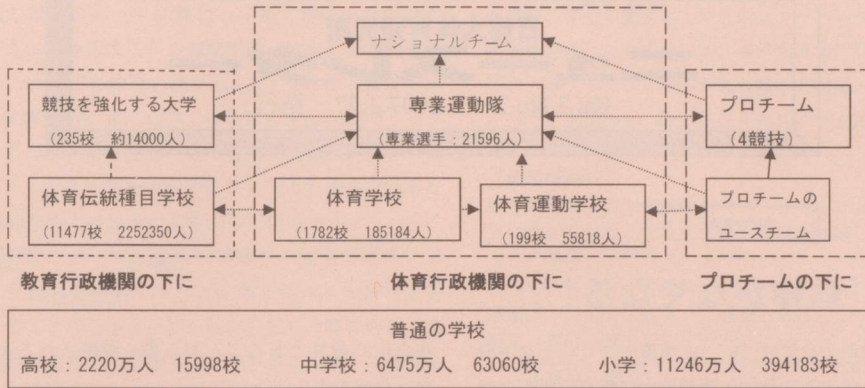
⑤大部分の選手は、このルートで育成されてきました。しかし、国家スポーツ支援政策の改革と国民意識の変化などにより、約50年間にわたって競技スポーツを支えてきた体育学校は、歴史の舞台から退く時期が間近にせまっていると考えられます。

⑥小、中、高、大学に在学する約2億人の若者は、競技スポーツの巨大な予備軍ですが、多くの学生はスポーツに無関心です。教育行政機関はこの様な状況を打破すべく、1980年代初頭から都市部の競技レベルの高い小、中、高、大学に重点を置いて選手の育成を試みましたが、現在のところ余り大きな効果は上がりません。

⑦中国では競技スポーツを発展させるために、1994年よりサッカー、バスケットボール、卓球、バレーボールのプロ化が進められました。この競技のトップレベル選手の大部分はプロチームに所属し、ジュニア選手は主に体育学校と体育運動学校で育成されています。なかでもサッカーのプロ化が最も進んでおり、多くのジュニア選手は民間のサッカー学校やサッカークラブで、育成・強化されるようになってきました。

⑧国際的に強い卓球、飛び込み、体操は選手強化の成果が最もあらわれた競技といえます。大多数の選手は、体育行政機関により設立された体育学校、体育運動学校、専業運動隊という専門的な選手育成・強化拠点で育てられています。この機関では、幼少時からのタレ

中国における選手育成システムのモデル図



ントの発掘と育成も行っています。素質のある選手には報酬が与えられ、長期間の訓練と各種トーナメントの開催等により、世代交代が外国にくらべてスムーズにおこなわれています。

### 3 今後の課題

①現在、中国では社会の民主化が進み、外国との交流が盛んとなり、国民の意識に大きな変化が起っています。特に、1980年代後半からの「一人っ子政策」によって、将来何の保障もないスポーツ選手にすることを親が敬遠し、選手を目指す子どもが減っています。また、1998年からの「国家行政機構改革」によって、体育行政機関の権限が抑制され、国のスポーツ補助金も減少してきています。

②いま中国のスポーツは、政府主導の少数エリート育成成型から国民参加型への移行期にあり、学校スポーツの役割は益々重要となっています。しかし、ほとんどの学校では日本と違って部活動が行われていません。スポーツが盛んな体育伝統種目学校（普通の学校）でも、部活動への参加が一部の学生に限られ、競技会に参加する機会が少なく、施設不足という問題を抱えています。学校スポーツを如何にして盛んにするかが、競技スポーツ振興政策のこれからの重要な課題です。

（今回のトピックスは、本学大学院へ中国から留学中の南尚傑さんに、修士論文をもとに寄稿していただいたものです。編集部では、これをもとにテーマ、字数等を調整し、トピックスとしました。）

### インフォメーション

#### 記事・編集者募集！

教職員、学生の皆さん、研究所ニュースレターを使って情報発信をしてみませんか。また、編集・発行に興味を持ってくれる学生さんは是非お手伝いしてください。様々な情報に触れることができ、学生の皆さんのキャリアアップにつながることも間違いなし！研究所スタッフが情報収集から編集・発行までサポートしますので、やる気さえあれば大丈夫です。

#### 【編集後記】

体育研究所では平成 18、19 年度、子どもの体力・運動能力に焦点を当てたプロジェクト研究を実施します。これに関連したセミナーを開催し、ニュースレターも発行していきます。ご期待ください！また、トピックスの話題についてのご意見、ご感想もお待ちしております。

編集・発行  
日本体育大学体育研究所  
〒158-8508  
東京都世田谷区深沢 7-1-1  
TEL&FAX: 03-5706-0968

日体大体育研究所  
**ニュースレター**  
Vol.3 No.2 2007.4.27 発行

## トピックス

## 「鉄棒がなくなる!?

④体育研究所では平成 18、19 年度のプロジェク・研究として、子どもの体力・運動能力に焦点を当てた研究に取り組んでおります。近年子どもの「体力・運動能力の低下」が問題とされていることは周知の通りです。授業現場においてもちょっとした運動ですぐバテる、とんできたボールを避けられない、こういった児童、生徒を多く見受けられます。主な原因としてテレビゲームの普及や塾通いといった生活の現代化のなかで子どもが外で運動する機会が減少したことなどがあります。今回のトピックスでは子どもの体力・運動能力低下の問題を朝日新聞 weekly AERA No. 6 (2007) に掲載された「鉄棒なし公園増えた訳」という記事を取り上げて検証していきます。

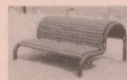
⑤街角の公園で【鉄棒】をみかけなくなっています。皆さんも子どもの時に一度は公園で鉄棒を使って遊んだことがあるのではないのでしょうか?今その鉄棒が公園からなくなってきたのです!2004 年度の国土交通省の調査では、全国の公園の数は約 4 割も増加しているのに、そこに鉄棒が設置されている比率は小さくなってきています。鉄棒と同じように減少傾向にある遊具としてゆりかご型ブランコ、つり輪、回転塔などがあります。これらの遊具は事故が多発したことが原因で設置されなくなっています。

鉄棒に代わり新しく公園に設置される遊具には、図のように一つは「背伸ばしベンチ」「お腹ひねり」等といった健康型遊具、もう一つは「コンビネーション型遊具」「スプリング型遊具」といった子どもの興味を強くひくことを目的に開発された遊具があります。健康型遊具が設置されるようになったのは、公園の主な利用者が高齢者に変化していったこと。「コンビネーション型遊具」や「スプリング型遊具」はテレビゲーム等の屋内で遊ぶ時間が増え、外で遊ぶ機会が減った子ども達が、鉄棒に比べて「ぱつ」と見ただけで興

味を引く遊具であることから多く設置されるようになった訳です。



コンビネーション型  
遊具\*



背伸ばしベンチ\*



スプリング型遊具\*

\*日都産業ホームページより転載 (<http://www.nitto-sg.co.jp>)

⑥事故が原因で減少傾向にある遊具に対して専門家は、耐久性に問題がある遊具は撤去すきだという発想に問題がある。遊具がないのが一番安全という発想を抱くのではなく、「子どもの体の発達を促す遊具を設置し、しっかり管理することが大切である」と指摘しています。コンビネーション型遊具のようによじ登ったり、滑ったりといった全身を使って遊ぶ遊具以上に鉄棒には子どもの発達上の意義があります。

⑦鉄棒は懸垂力、握力、腹筋、背筋などの上半身の筋力を中心に活用する為、上半身の筋力を自然に鍛えているということになります。また鉄棒でみなさんが思い出深い種目といったら逆上がりではないでしょうか?逆上がりは小学校における体育の授業で誰もが経験のある種目であると思います。初めて逆上りにチャレンジした時の事を思い出してください。日常とは違い天と地が逆さまになり、鉄棒から手を離したら地面に落ちてケガをしちゃう!?!といったような恐怖との葛藤もあったのではないのでしょうか。できるようになるまで何回も何回も鉄棒に向かって練習したと思います。逆上がりができるようになるには「勢いのつけ具合、鉄棒に体を引きつけるタイミング、足の振り上げ」などの動作が自分の体で感覚的に覚えられ

るようになったときに初めて完成されると思います。各種の競技スポーツに携わってきた皆さんならわかるように、各競技にある運動形態（技術）を習得するためには何回も練習を繰り返して、「身体の動かし方」を感覚的に身につけていったのではないのでしょうか。このように子どもたちの遊びや運動は筋力、バランス、メンタル等を刺激することにより体力だけでなく知的な能力の発達にも繋がっていきます。

④高齢化に伴って公園にお年寄りの健康の維持に着目した遊具を導入することは多くの人々の賛同を得られることでしょう。しかし、子どもの興味を引く遊具を設置するだけでなく、全力をふりしぼって挑戦していく鉄棒は、子どもの体力・運動能力の低下が問題となっている今日こそ大事な発達上の意義があります。健康の保持増進と体力の向上の重要性は小・中学校の学習指導要領にも明記してあります。さらにそこには鉄棒という内容も組み込まれています。健康の保持増進と体力の向上の一役を担うと考えられる鉄棒に触れる環境が減少しているのです。子ども達が運動をする機会・環境の整備について考えることも必要なのではないでしょうか。

### 記事・編集者募集!

教職員、学生の皆さん、研究所ニュースレターを使って情報発信をしてみませんか。様々な情報に触れることができ、研究所スタッフが情報収集から編集・発行までサポートしますので、やる気さえあれば大丈夫です。

### 【編集後記】

体育研究所では平成 18、19 年度、子どもの体力・運動能力に焦点を当てたプロジェクト研究を実施しています。これに関連したセミナーを開催し、ニュースレターも発行していきます。ご期待ください!また、トピックスの話題についてのご意見、ご感想もお待ちしております。編集（青山 健太）

編集・発行 日本体育大学体育研究所 〒158-8508 東京都世田谷区深沢 7-1-1 TEL&FAX: 03-5706-0968
---

## インフォメーション

平成 19 年度体育研究所主催第 1 回セミナー開催!!

「子どもの体力・運動能力を考える」  
 ～プロジェクト研究中間報告会～

開催日時 : 平成 19 年 5 月 16 日 (水)  
 17:00～19:00 (予定) ※途中入退出可

場所 : 深沢 626 教室

プログラム : 詳細については学内に掲示するポスターを御参照ください。

発表者 : 中里 浩一 准教授  
 西山 哲成 准教授  
 久保 健 教授

備考 : 本セミナーは、学生の皆さんが現場に出たときに役立つような情報を提供することをねらいとしています。ぜひ多くの学生に参加していただきたいと思っております!!

# 日体大体育研究所 ニュースレター

Vol.3 No.3 2007.5.16 発行

## トピックス

### 「オーストラリア便り

#### ～他を認めてる？」



①オーストラリア・アデレードで研修中の伊藤雅充です。今回の学外研修は家族も一緒に来ており、息子が現地の公立小学校に通い、これまで一生懸命取り組んできたテニスも続けています。私自身の活動だけでなく、息子の活動を通して様々なことを学ばせてもらいました。今日は私の専門領域とは少し離れてしまっていますが、日本との違いを感じさせられたあることを是非皆さんに紹介したいと思います。それは「他を認める」という態度です。



②例えば私の研修先であるSASIのミーティングですが、リーダーが司会進行を行い自分の考えを提案します。その後、他のメンバーもリーダーの意見に賛成か反対かを理由を沿えて明らかにします。リーダーもその意見をしっかりと受け止めながら全体の方向性を決定しますが、反対意見を持っていたメンバーも会議の決定事項に従い積極的に活動します。お互いのことを認め合っているからこそ前向きな議論が可能なのだと感じています。

③息子の学校やテニスでも「他を認める」をよく感じます。この場合は「個を認める」といった方が分かりやすいかも知れません。週1回はテニスのレッスンを受けるために学校を半日休むのですが、学校の先生方は「本人が打ち込んでいることだから」と快く認めてくれます。コーチの指導も素晴らしいと感じています。オーストラリア人には珍しく非常に厳しい（細かい）指導をするコーチですが、10歳の子どもを一人のプレイヤーとして認め、個人の能力を最大限に引き上げ

るための努力を惜しみません。また、世界No1を育てた実績を持ち、現在も世界トッププロやそのコーチのアドバイザー的な存在であったりする彼は、テニスの素人である私に対しても様々な意見を求められます。他を認め、常に他から学ぼうとする姿勢は本当に素晴らしいと思います。

④子ども達の試合態度にも「他を認める」という姿勢がよく表れています。対戦相手が良いプレーをしたときには「Good Shot!」と相手を褒めます。観戦している親も同じで、良いプレーがあれば敵味方関係なく賞賛の拍手を送ります。ちなみに試合開始時には「Good Luck!」、試合終了時には「Good Game!」という声をかけます。雰囲気としてはGood Luckは「お互いベストを尽くそう。あとは運だね。」、Good Gameは「お互い良い試合ができたね。満足してるよ。」という感じででしょうか。これら英語での言葉かけを知って、お恥ずかしいことに、日本の「お願いします」

「ありがとうございました」という挨拶の持つ意味が、単なるうわべだけの挨拶でないという事に改めて気づきました。言語の違いはあれ、全く同じ事を意味しているように感じています。

⑤ただ、日本での試合ではテニスに限らず、相手のミス喜び、それに態度や言動でつけ込もうとすることが多いのも事実ではないでしょうか。自分の良いプレーを相手にも認めてもらうためには相手の良いプレーを認めなくてはなりませんし、相手のミスをけなすような態度を取るべきではないと思います。





⑩先日の息子の試合でのことです。攻めて攻めて最後にジャストアウトだったとき、相手は「Bad Luck!」と声かけをしていました。「プレーでは僕の方がやられてしまっていたけど、ちょっと不運だったね。」という意味でしょう。お互いに相手を認め合いながら、全力を出し合うからこそ、試合が終わったときに「Good Game! (ありがとう)」と心から握手ができるのだと思います。



⑪オーストラリアは移民の国であるという背景もあり、他を認めるという態度が社会生活を営む上で欠かせないことなのでしょう。それだけではなく、オーストラリアには国が示したスポーツに関する行動規範があります。プレーヤー、両親、コーチ、メディア、観衆らがどのように振る舞うべきなのかを明確にしています。

その根底にあるのがやはり他（相手）を認めることだと読み取れます。個人や組織レベルでスポーツマンシップを磨くことを考えることも重要ですが、国レベルでスポーツの価値を向上させていこうとする姿勢は私たちも見習わなくてはならないのではないかと感じています。

興味のある方はアクセスしてみてください↓



<http://www.ausport.gov.au/ethics/codes.asp>

【一口 memo】

⑫「Good Luck!」「Good Game!」を読んで思い出した試合がある。ソウルオリンピック(1988年)のヨット競技でこんなことがあった。

決勝当日の釜山の海は荒れていた。荒波にもまれてシンガポール艇が転覆し、二人の選手が海に放り出された。その時、先頭集団にいたカナダ艇がレースを放棄して近づき、二人の選手を助けあげた。

さてこのニュースレターを読んでいるあなたは、試合でこのような場面に遭遇したとき、レースを「そのまま続行しますか?」「中断し助けあげますか?」

カナダ艇の1人、レミューは「ヨットレースにおける第一のルールは遭難した人を救うことですから」と言葉少なに語った。(西條)

インフォメーション

◎記事・編集者募集!



教職員、学生の皆さん、研究所ニュースレターを使って情報発信をしてみませんか。

様々な情報に触れることができ、研究所スタッフが情報収集から

編集・発行までサポートしますので、やる気さえあれば大丈夫です。

【編集後記】

みなさん、ゴールデンウィークはいかがでしたか? 好天気も続き、5月病が始まったなんて方もいらっしゃるのでは? 早く元の生活スタイルを取り戻して、梅雨時に体調を崩さないように気をつけましょう。体育研究所では平成18、19年度、子どもの体力・運動能力に焦点を当てたプロジェクト研究を実施しています。これに関連したセミナーを7月中開催を予定しています。ニュースレターも発行していきます。ご期待ください! また、トピックスの話題についてのご意見、ご感想もお待ちしております。

編集・発行

日本体育大学体育研究所  
〒158-8508  
東京都世田谷区深沢 7-1-1  
TEL&FAX: 03-5706-0968

日体大体育研究所  
**ニュースレター**  
 Vol.3 No.4      2007.6.6 発行



## 中国におけるジュニア選手のタレント発掘事業

④中国での選手の選抜は、かつて、これまでの成績とコーチの判断によっていたため、発育が早い選手の方が選ばれやすかった。そのため、ジュニア時代に世界のトップであっても、成年になると二流選手となるケースが非常に多かった。

このような問題を改善するため、中国では「運動員科学選材」、日本でいうタレント発掘に関する研究が1987年から国家プロジェクトとして取りあげられました。

現在はジュニア選手のタレント発掘がほぼ全国的に普及してきています。特に2008年北京オリンピックに向けて、「オリンピック優秀選手のタレント発掘研究」は競技力向上のための国家重点支援事業として位置づけられています。

### ④「ジュニア選手タレント発掘の種類」

ジュニア選手のタレント発掘は、①進級、②定期、③競技会、の3種類に分けることができます。

#### ④①進級タレント発掘

競技力向上のため、すべての省級地域（日本の都道府県に相当）において、国のスポーツ補助金で多数のジュニア選手を育成する体育学校（主に小、中学生を対象）、体育運動学校（主に高校生を対象）とトップレベル選手を強化する専門運動隊を設置しています。大部分の競技選手はこれらの特別な機関で育成・強化されています。進級タレント発掘は、選手の競技レベルによってさらに初心者、初級者、有望者のタレント発掘の3段階に



分類されます。

④②初心者のタレント発掘とは体育学校が入学者を決める時、応募者の中から素質のあるジュニア選手を選抜するために行われる調査です。現在、ほとんどの体育学校では入学する前に、タレント発掘の調査を行い、コーチが調査の結果を参考に将来性を判断した後、適性種目を勧め、入学者を決めます。

体育学校の生徒募集にはスカウトと一般募集があります。スカウトの場合、コーチが地域の学校の体育授業と運動会などを巡回し、才能のある者を発見し、本人と保護者に入学を勧誘します。一般募集の場合、希望者が学校に入学を申請します。

④③初級者のタレント発掘とは、初心者が体育学校で約1年半のスポーツ専門訓練を受けた後、彼らの進歩状況をチェックするために行われる調査のことです。

多くの研究によると、初心者が1年半ほどの専門訓練を受けた後の競技記録は、非常に重要なデータであることが指摘されています。たとえば、陸上競技の短距離と跳躍種目において、11歳、12歳の初心者が1年半ほどの専門訓練を受けた後、男女とも13歳の時点での記録は、成人になってからの最高記録の平均86%、97%（原文のまま）に到達しています。つまり、この時期の成績からジュニア選手の将来性がほぼ見えるわけです。このため、多くの体育学校は入学してから1年半経った者に対して、タレント発掘の調査を行い、彼らの将来性をもう一度考え直します。もし、将来性がないと判断されれば、やめさせる場合もあります。

④④有望者のタレント発掘とは、専門運動隊がエリートを選抜するときに行われる調査のことです。中国では大部分のトップレベル選手は、地方の体育行政機関の下に管理される専門運動隊に在籍しています。

専門運動隊の任務は主にエリートを選抜し、さらに育成・強化し、ナショナルチームに推薦することです。専門運動隊は選手を選抜する時、これまでの成績を重視すると同時に、タレント発掘の調査結果も重要な参考資料として取り扱います。そのため、良い成績の選手であっても、タレント発掘の調査によって将来性がないと判断された場合、専門運動隊に選ばれないケースはよくあります。

### ②定期タレント発掘

タレント発掘の研究が進んでいる地域（北京、上海など）では、年2回定期的に調査を行う体育学校があります。その内容として、コーチあるいは研究者によるジュニア選手の進捗状況の把握、指導方法の改善、成長期にある彼らの怪我の予防と早期治療などがあります。

### ③競技会タレント発掘

中国では、多くの競技種目で年2回の「全国ジュニア選手権」が行われています。その際に、各競技種目の協会はジュニア選手の養成状況を把握し、ジュニアナショナルチームの選手を選抜するために、タレント発掘の調査を行います。

費用、技術、研究者の不足などが原因でタレント発掘ができない地方のチームもあり、この場で調査ができます。たとえば、網膜剥離は飛び込み選手がかかりやすい疾患です。このような疾患をもっているにも検査費が高くて、定期検査を受けることが出来ないために早期に引退をする選手もいました。現在、この検査は、「全国飛び込みジュニア選手権」でのタレント発掘の重要な項目として実施されています。

### ④「今後の課題」

タレント発掘事業は、競技力向上の重要な要因であり、多くの優れた素質を持っている選手が選ばれ、中国の競技スポーツの発展に大きく貢献したと言えます。しかし、現在多くのコーチがタレント発掘に頼りすぎて、練習や指導法を工夫してスポーツ天才を作るという意欲はあまり強くないようです。

優れた素質を持たなければ、エリートになれないわけではありません。日本の北島康介、為末大、清水宏保などの選手は、身長などの形態的には余り恵まれて



いるとはいえません。しかし、練習・指導法の工夫や科学的なサポートによって、素晴らしい成績を収めることができることを実際に証明しました。ところが、国際舞台で活躍する

中国の競技選手にはこういうタイプの選手がほとんど見当たりません。

また、中国ではタレント発掘によって将来性がないと判断されれば、たとえ現在良い成績でも上位のチームに選ばれない可能性があるため、上位チームと下位チームのコーチの間に、対立が生じることがよく知られています。それはタレント発掘の科学性に対して不信感を抱えるコーチが多いからではないかと考えられます。

今回は中国のタレント発掘のシステムでしたが、機会があれば測定項目などの内容についても紹介したいと思います。

（本学大学院後期課程1年生 南尚杰）

### 記事・編集者募集！

教職員、学生の皆さん、研究所ニュースレターを使って情報発信をしてみませんか。様々な情報に触れることができ、研究所スタッフが情報収集から編集・発行までサポートしますので、やる気さえあれば大丈夫です。

### 【編集後記】

体育研究所では平成18、19年度、子どもの体力・運動能力に焦点を当てたプロジェクト研究を実施しています。これに関連したセミナーを開催し、ニュースレターも発行していきます。ご期待ください！また、トピックスの話題についてのご意見、ご感想もお待ちしております。

編集・発行  
日本体育大学体育研究所  
〒158-8508  
東京都世田谷区深沢7-1-1  
TEL&FAX: 03-5706-0968

# 日体大体育研究所 ニュースレター

Vol.3 No.5 2007.12.19 発行

## クラブワールドカップの舞台裏

### ～審判員のトレーニングに潜入～

⑬ 2007年も残すところあとわずかとなりましたがクリスマス、お正月とイベントが続きますね。イベントといえば日本でサッカーのクラブワールドカップが開催されました。クラブワールドカップは世界の各大陸のクラブチームのチャンピオンが日本に集まり、クラブチーム世界一を決定する為に開催されている大会です。今回の大会では、ヨーロッパの代表であるイタリアのACミランが優勝しましたが、アジアの代表として初めて日本のクラブチームである浦和レッズが出場し、3位というすばらしい結果を残しました。私の専門競技がサッカーということもあり、このクラブワールドカップの仕事をお手伝いさせていただきました。今回のニュースレターでは、その活動と体験について報告していきます。

⑭ クラブワールドカップで私が携わった仕事は、サッカー審判員のトレーニングのサポートです。サッカーの試合観戦において有名選手の華麗なプレーに惹きつけられると同時に、審判員の判定にも私たちは敏感に反応しているのではないのでしょうか。それはサッカーに限らず、スポーツにおける審判員の判定が勝敗を大きく左右するからです。近年、メディアや機器が発達し誰もがVTRの映像をもとに判定について吟味することが可能となりましたが、審判員は一瞬の事象を的確に見極めて判断し実行することが常に求められています。

⑮ クラブワールドカップでは、世界一を決める大会にふさわしい世界トップレベルの審判員並びに審判員担当のスタッフが召集されました。サッカーの審判員は審判をする上での目標として、判定、動き、ポジショニング、態度、姿勢などの重要項目が挙げられています。クラブワールドカップではこれらの項目を達成し、良いゲームコントロールをする為にスタッフが



編成されていました。スタッフは、大きく分けて審判員のコンディショニングを担当するフィジカルスタッフと審判員のプラクティカルトレーニングを担当するスタッフとに別れています。プラクティカルトレーニングとは、実際の試合と同じように選手を配置し、試合中に起こるシチュエーション（ファウル等）に対して審判員が対応していく審判技術習得を目的としたトレーニングです。一回のトレーニングは約2時間行われます。前半の約60分間をランニング中心のフィジカルトレーニングに費やし、後半の約60分間はプラクティカルトレーニングが行われます。



プラクティカルトレーニング（主審と副審の協力）

⑯ プラクティカルトレーニングで審判員が要求されていたことは、事象（ファウル等）を正確に見極めて判定することです。その為には、ファウルが起きることを予測し、素早く動き近くで良い角度を保持して判定することが重要です。さらにプラクティカル担当のスタッフは、「なぜファウルだ？何でイエローカードなんだ？」といった質問を多く審判員達になげかけてい

ました。質問を受けた審判員は、質問に対して「後方からの無謀なファウルタックルだからイエローカードです」といった具合に自信をもって答えていました。こういった質問のやりとりは、審判員は「激しいプレーだからファウル」、といった具合に Feeling で笛を吹くのではなく、しっかりとファウルを見極めてルールに基づいた忠実な判定をしていく為のトレーニングになるのです。



ブラクティカルトレーニング時 Q&A

⑩ このようなブラクティカルトレーニングが延べ 7 日間実施されましたが、選手役として本学学友会サッカー部の部員に協力していただきました。一昨年からクラブワールドカップが日本で開催されるようになり、今回報告した審判員のトレーニングも実施されてきました。しかし毎年 FIFA (国際サッカー連盟) からの要望である「全日程トレーニングに参加でき、ファウルのシュチュエーションに耐えられるタフで巧い選手 22 名の確保」に答えることが難しい現状がありました。今年は本学学友会サッカー一部員に積極的に参加していただき、大変充実したトレーニングを実施することができました。日体大生らしく熱く激しいプレー、積極性が高い評価を FIFA から受けております。ありがとうございました！



FIFA の指導者から指示を受けるサッカー部員



⑪ 今回審判員のトレーニングに参加し、選手達が日々勝利に向けてトレーニングに励んでいるように、審判員も選手達が安全に公平にプレーに集中できる環境をつくるためにトレーニングに取り組んでいることを知ることができました。オリンピックに代表される競技スポーツの世界では、脚光を浴びる一流選手のサポート役に必ず今回取り上げた審判員のような影であるが欠かせない存在があります。スポーツを学ぶ学生の皆さんが将来一流選手や選手を育てる指導者を目指すことと同時に、今回紹介したようなスポーツの裏側も忘れずにいてほしいです。

(体育研究所 青山健太)

#### 記事・編集者募集！

教職員、学生の皆さん、研究所ニュースレターを使って情報発信をしてみませんか。様々な情報に触れることができ、研究所スタッフが情報収集から編集・発行までサポートしますので、やる気さえあれば大丈夫です。

#### 【編集後記】

体育研究所では平成 18、19 年度、子どもの体力・運動能力に焦点を当てたプロジェクト研究を実施しています。これに関連したセミナーを開催し、ニュースレターも発行していきます。ご期待ください！また、トピックスの話題についてのご意見、ご感想もお待ちしております。

編集・発行  
日本体育大学体育研究所  
〒158-8508  
東京都世田谷区深沢 7-1-1  
TEL&FAX: 03-5706-0968

日体大体育研究所  
**ニュースレター**  
 Vol.3 No.6 2008.1.23 発行

## 知ってるようで意外と知らない？

### オリンピックの豆知識

🍷 あけましておめでとうございます。冬休みはいかがでしたか？私は、大晦日には年越しそば、元旦には氏神（産土神・うぶすながみ）様に初詣に出向き、お正月の三箇日にはお雑煮を食べることが毎年のルーティンワークとなっています。年中行事には、バレンタインやクリスマスなど、西洋から入ってきた行事が数多くありますが、年末年始ぐらいは日本文化を十分に堪能しようと思っています。

さて、2008年のスポーツ界のビックイベントといえば、なんと言っても北京オリンピックでしょう。前回のギリシアで行われたアテネオリンピックでは、4つの金メダルを含む11個のメダルを本学の関係者が獲得しました。これは、1984年にアメリカで行われたロサンゼルスオリンピックの12個に次ぐ好成績でした。今年もまた数多くの学生・教職員が、この世界的なスポーツの祭典に参加し、大いに活躍することでしょう。

しかし、このオリンピックについて皆さんはどれほど知っていますか？「4年に一度のスポーツの祭典」、「夏季と冬季がある」、「北京の次はロンドン」などでしょうか？開催都市や特定の種目などは知っていても、概要や規則、考案者などは意外と知られていないものです。

という事で、今回のニュースレターは「知っているようで意外と知らないオリンピックの豆知識」について報告したいと思います。

#### オリンピックとは？

🍷 そもそも、この4年に一度のスポーツの祭典の名称を、どうしてオリンピックと名づけたのでしょうか？この名前の由来は、古代オリンピックが行われていたギリシアのゼウスの神殿オリュンポス（オリンピ

ア）が由来と言われています。現在のようない国際オリンピック委員会（IOC）の主催で国際スポーツ競技大会として開催されるオリンピックは、この古代ギリシアのオリンピアの祭典をモデルに、フランスのクーベルタン男爵が主唱して近代オリンピックとして復興させたものです。

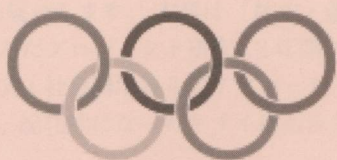


近代オリンピックの父と呼ばれている

ピエール・ド・クーベルタン男爵  
 出展：フリー百科事典「ウィキペディア」

この近代オリンピックは、夏季大会と冬季大会があり、前者は1896年にアテネで、後者は1924年シャモニで第一回大会を開催し、世界大戦による中断（1916年、1940年、1944年の3回）をはさみながら継続されてきています。当初、夏季、冬季共に同年度に行っていましたが、1994年のリレハンメル大会以降は、西暦が4で割り切れる年に夏季大会を、4で割って2があまる年に冬季大会を開催することとなりました。

🍷 オリンピックは、オリンピアド競技大会（Olympic Games）の略称であり、大会には近代オリンピックの象徴でもある五輪旗を用いることから、日本では五輪とも表現されます。この五輪旗は、クーベルタン男爵が考案し、1914年に制定されました。



## 五輪旗

この旗のデザインは、オリンピックを通じて五大陸の平和と協力を表す五色の輪を中央においています。一説には、世界五大陸（左から青：オセアニア、黄：アジア、黒：アフリカ、緑：ヨーロッパ、赤：アメリカ）と五つの自然現象（水・砂・土・木・火）およびスポーツの五大原則（水分・栄養・技術・体力・情熱）を原色五色（単色でも可）で表し、五つの輪が重なり合うW字形に組み合わせ、平和への発展を願ったものとする説もあります。ちなみに、初代オリンピック旗は木綿で作られていましたが、一度盗まれてしまい、1992年のバルセロナ夏季大会より合成樹脂の五輪旗が使用されているようです。

### 開会式の決まりごと

① 開会式では、オリンピック賛歌を合唱すること、五輪旗・開催国旗掲揚、開催国の国歌斉唱、最終ランナーによるトーチの点灯、そして、平和の象徴である鳩が飛ばされることとなっています。

なかでも、このオリンピック賛歌は第一回大会の開会式で演奏されましたが、その後は違う賛歌が演奏されたり、賛歌自体が演奏されなかったりしたようです。しかし、賛歌の古い楽譜をNHK交響楽団が改めて採譜、編曲して1958年5月に東京で開かれたIOC総会で演奏したところ、IOCはこの善意と曲の素晴らしさに感激し、以後この曲を公式に認定しました。

また、開会式の入場行進は、オリンピック発祥の地ギリシアの選手団が先導し、最後に開催国の選手団が入場すること意外は、特に決まりはないようです。ちなみに、ギリシアが開催地となった前回のアテネオリンピックでは、まずギリシアの旗手のみが先導し、最後にギリシアの選手団が入場しました。

### 日本はいつから出場しているの？

② 日本が初めて参加したのは1912年第5回ストックホルム夏季大会でした。これは、クーベルタン男爵による強い勧めによるものであったとされていますが、加納治五郎を初めとする日本側の関係者の努力も大きかったようです。

### 日本人初のメダリストは？

③ 日本人初のメダル獲得は、1920年第7回アントワープ夏季大会で意外にもテニスのシングルで熊谷一弥が銀メダルを獲得しました。また、日本人初の金メダリストは、1928年第9回アムステルダムオリンピックで日本選



織田幹雄

手団主将を務めた、  
織田幹雄が三段跳びで15m58cmの当時の世界記録で優勝しました。ちなみに、日体大初の金メダリストは1960年第17回ローマ大会での体操団体（竹本正男、鶴見修治、相原信行）と体操徒手（相原信行）でした。

（体育研究所 岩原文彦）

### 記事・編集者募集！

教職員、学生の皆さん、研究所ニュースレターを使って情報発信をしてみませんか。様々な情報に触れることができ、研究所スタッフが情報収集から編集・発行までサポートしますので、やる気さえあれば大丈夫です。

#### 【編集後記】

皆さん、今回の記事はいかがでした？私達の周りには、知っているようで知らないことがたくさんあります。普段、何気なく見過ごしてしまっていることも時には調べてみると意外なことがわかってくるものです。8月に行われる北京オリンピックでは、本学の関係者が活躍することを期待しましょう！

編集・発行  
日本体育大学体育研究所  
〒158-8508  
東京都世田谷区深沢7-1-1  
TEL&FAX: 03-5706-0968